

12/18 球磨

「コロナ禍で社会保障圧縮

財務・厚労相 薬価引き下げを利用

高齢化などに伴つて、021年度の社会保障費の「自然増」をめぐって、麻生太郎財務相と田村憲久厚生労働相は17日の閣僚折衝で、薬の公定価格「薬価」の引き下げるを利用し、約3000億円を削減しました。薬価の引き下がりました。

け分をコロナ禍で苦しむ医療現場の体制拡充に充てるのではなく、社会保険費抑制路線を優先するものです。

安部前政権下の13、20年度の8年間をみると、「自然増」分は計1兆8300億円も削減されました。自然増削減のため、医療機関に

支払われる診療報酬の総額削減などが繰り返されできました。20年度の自然増は、概算要求段階から計1300億円を圧縮して見ましたが、21年度は

21年度改定は全体の約7割の医薬品を対象として、国庫で約100億円を削減します。

年度をトト回の約3000億円を下回るかと決定。薬価について、市場価格との差が5%を超えて高い品目を引き下げることでも合意し、引き下げる自然増削減を利用します。

薬価は従来、診療報